

令和4年11月15日

6年生保護者の皆様へ

門真市立砂子小学校
校長 満永 誠一

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果のお知らせ

今年度実施された全国学力・学習状況調査について、本校の結果をまとめましたのでお知らせします。

この調査は、6年生の国語・算数・理科について行われたもので、学校全体の傾向を示すものではありませんが、1年生から積み重ねてきた学習指導の結果を反映したものであり、学校ではその結果を踏まえて、今後の授業改善などの学力向上対策に役立ててまいります。

1. 学力の概要

① 全国平均との比較

教科	国語	算数	理科
全国平均に対する評価	下回っている (-13.5)	下回っている (-8.2)	下回っている (-13.3)

2. 全国において正答率が高く、本校において正答率が高かった問題例

【国語】

話し言葉と書き言葉との違いを理解する%

校内正答率:77.5%【全国正答率:85.5%】

必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える

校内正答率:77.5%【全国正答率:84.7%】

【算数】

被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる

校内正答率:90.0%【全国正答率:92.4%】

表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる

校内正答率:75.0%【全国正答率:75.3%】

図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している

校内正答率:70.0%【全国正答率:83.2%】

【理科】

問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。

校内正答率:85.0%【全国正答率:92.9%】

3. 全国において正答率が高く、本校において正答率が低かった問題例

【国語】

登場人物の相互関係について、描写をもとに捉える

校内正答率:62.5%【全国正答率:70.6%】

漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く

校内正答率:60.0%【全国正答率:77.9%】

【算数】

二つの数の最小公倍数を求めることができる

校内正答率:47.5%【全国正答率:72.2%】

示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる

校内正答率:57.5%【全国正答率:76.0%】

百分率で表された割合を分数で表すことができる

校内正答率:62.5%【全国正答率:71.1%】

【理科】

昆虫の体のつくりを理解している

校内正答率:67.5%【全国正答率:73.1%】

提示された情報を複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる

校内正答率:60.0%【全国正答率:76.1%】

メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている

校内正答率:37.5%【全国正答率:70.0%】

問題に対するまとめを導き出すことができるよう、実験の過程や得られた結果を適切に記録している

校内正答率:57.5%【全国正答率:74.4%】

観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる

校内正答率:62.5%【全国正答率:82.3%】

裏面もごらんください

4. 学習状況調査の概要

a. 生活習慣・学習習慣等について(肯定的意見の割合)

	設問	自校	全国
1	自分にはよいところがある	77.5%	79.3%
2	話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたり出来ている	55.0%	80.1%
3	平日1日あたり1時間以上勉強している	22.5%	59.4%
4	平日1日あたり10分以上読書する	32.5%	59.6%
5	自分と違う意見について考えるのは楽しい	60.0%	73.5%
6	今住んでいる地域の行事に参加している	47.5%	52.7%
7	毎日同じくらいの時間に起きている	70.0%	90.4%

b. 考察

学習状況(アンケート結果)の結果を見ると、「自分にはよいところがある」という自分自身を認める割合は全国平均と変わりません。これはある意味、安心材料です。しかし、平日1日あたりの学習時間や読書時間が全国平均に比べてかなり低く、毎日同じくらいの時間に起きている割合も全国平均より20ポイントも低くなっています。

この結果を見ると、学習習慣や基本的な生活習慣をしっかりと身につけることが6年生の子どもたちの大きな課題であると考えます。ご家庭でもどうぞ生活習慣や学習習慣等について子どもたちと話し合い、それらがしっかりと身につくようご協力をいただきますようお願い申し上げます。

5. 砂子小学校の取組と評価

6年生においては、児童会活動や特別活動、総合的な学習などに積極的に取り組み、子どもたちが自分たちの力で頑張れる態度や仲間と協働する力などの育成を図っています。

仲間とつながる力や、自分自身の力を信じて何ごとにもチャレンジしていく力、思いやりの心をもって相手と接する力など、点数では測れない力を『非認知能力(ひにんちのうりよく)』といいますが、この力の育成が今後、中学校に進学しても大切だと考えて様々な取組を進めています。

こうした力が付いたかどうか、毎学期末に子どもたちに10項目のアンケートを行い、どれほど伸びたのか、あるいは伸びなかったのか検証しています。アンケート結果をもとに取組の改善を図っていきます。

6. 今後の取組について

今後、中学校進学に向けて子どもたちの興味関心を高められる授業や出番や役割がある授業、仲間から認められる場面のある授業をめざします。また、特別活動や総合的な学習、道徳科の学習などをおして、子どもたちの非認知能力を高める取組を進めます。

7. 保護者の皆様へ

6年生の子どもたちの大きな課題は基本的な生活習慣や家庭学習習慣をしっかりと身につけていくことだと考えています。中学校ではこの2つはとても大切な要素となります。高校への進学に向けて中学校3年間を充実したものにするためにも、基本的な生活習慣や家庭学習習慣の定着に向けてご家庭でもご尽力いただきますようお願い申し上げます。